

本年度は「心機一転」をテーマにして、皆様とともに明るい未来を考える本を紹介いたします。

今号は「転」に関する4冊の紹介です。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



大塚女子アパートメント物語 オールドミス館によこそ

2010年 教育史料出版会
川口 明子 (著)

[100-6]

女性は結婚して家庭を守るのが当然とされていた昭和5年、東京に日本初の「職業婦人のためのアパート」が設立された。食堂や浴室があり、共同ではあるが水洗トイレやサンルームも完備の憧れの住居であった。入居できたのは当時高収入を得ていた教員、医師、タイピストなどのキャリアウーマンのみ。彼女たちは「オールドミス」と侮られてもひるむことなく、男性が圧倒的に優位であった社会のなかで個人を尊重する生き方を築き上げていった。建物は消滅してしまったが、居住者たちの「想い」は今も語り継がれている。(みつと)



子ども食堂をつくらう！ —人がつながる地域の居場所づくり

2016年 明石書店
NPO法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク (編著)

[700-6]

子どもの貧困が問題となっている現在、独りぼっちでひもじさに耐えている子どもたちに温かいごはんを用意できる場所をつくりたい。でもどうすればいいのだろう。「場所は？費用は？スタッフは？」などの数々の疑問の解決には本書を執筆した子ども食堂運営者の体験談をぜひ参考に…。話し相手のいない高齢者も、職を失った若者も、子育て中の親たちも「ごはんおいしかったよ。いっぱいおしゃべりもしたよ」。そんな声が聞こえてくるような地域の居場所づくりを考えてみませんか。みんなの笑顔を想像しながら。(みつと)



ジェンダー・クォータ 世界の女性議員はなぜ増えたのか

2014年 明石書店
三浦 まり、衛藤 幹子 (編著)

[700-7]

世界のジェンダー・クォータの今を9人の専門家が、それぞれの専門分野から分析、検討し、日本の政治制度に生かせる道について検討。

クォーター制を実施しているヨーロッパ諸国、制度がなくても女性議員が多数の国、その歴史と要因、そして今を知ると、あるべき姿が見えてくる。

未だ、世界最低水準の日本の議員男女比率をこの先変えていく道はあるのか？

研究者だけでなく、私たちも知って声を上げることで変化は始まる。(ルナ)



主婦になりきれない女 中流核家族からの Run away

1999年 ブロンズ新社
橋 由子 (著)

[1100-1]

いい嫁を演じようとしていた。新築騒動で、その努力やがまんからくる拘束感が限界に。逃げ出したい。でもこわい。離婚後の生活の孤独と貧困が、床下で落ちてるのを待ち受けているワニに見えた。離婚後、中流家庭で育った大学出の職業に対するセルフイメージを突き崩し、コンビニでのパート、2tトラックのドライバーを経て、夕食材料宅配サービスで生活を立てる。責任をとる快感を覚えた。ワニもなつけばこわくない。生きる実感を得て、淡々と暮らしている。

仕事の描写が現実的でわかりやすい。(ぽっと)